

事務事業名	教育魅力化推進事業		所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育政策課					
総合計画体系	政策名	〈IV〉ふるさとを学び育つまち〈教育・文化〉		所属G	キャリア教育政策G	課長名	川西泰恵				
	施策名	〈26〉学校教育の充実		担当者名	福島勇樹	電話番号	0854-40-1074 (内線) 2274				
	目的・対象	児童・生徒	意図	基礎基本(知・徳・体)の発達を促し、生き抜く力を身につける。							
	基本事業	〈077〉地域力を活かした教育の充実		予算科目	会計	款	大事業	大事業名	教育推進事業		
目的・対象	児童・生徒	意図	地域の力を活かして学ぶ。				項	目	中事業	中事業名	教育魅力化推進事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
中学生、高校生、教職員、保護者など	市内高校で学びたいと思う中学生、チャレンジ精神に溢れ将来も雲南に貢献したいと思う高校世代が増える。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H28 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	雲南コミュニティハイスクールコンソーシアム(以下「UCHC」)を軸に雲南式探究プログラム(以下「雲南式探究」)をはじめ、スペシャルチャレンジJr.プログラム(以下「スペチャレJr.プログラム」)など官民協働による魅力ある教育環境づくりを推進する。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R5年度実績(R5年度に行った主な活動)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
業務委託による魅力ある教育環境づくりの推進 (契約事務、業務進捗管理、定例協議 ほか) L雲南式探究の推進(職員研修、学習教材改訂) LスペチャレJr.プログラムの推進 L地域みらい留学365(単年留学)の推進・留学生サポート	・高校担当のコーディネーターについて、持続可能な推進体制を構築するため、探究学習サポートなど役割を明確にすることで、学校常駐型ではない体制へ移行した。 ・雲南式探究及びスペチャレJr.プログラムではハンドブック開発や改訂、研修プログラム開発などを実施している。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(計画)
ア 市内生徒(中3)の市内高校進学率	%	60.4	62.6	63.6	65.0
イ ふるさとが好きな生徒(高3)の割合	%	90.1	88.9	-	80.0
ウ 将来も雲南市に貢献したいと思う生徒(高3)の割合	%	79.7	72.5	-	80.0
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R5年度決算)	② コストの推移	単位	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(計画)	
			千円	千円	千円	千円	
報償費 3千円 旅費 207千円 委託料 24,303千円 使用料及び賃借料 119千円	財源内訳	国庫支出金	千円	22,336	10,776	12,152	14,923
		県支出金	千円				
		地方債	千円				
		その他	千円	2,677	10,853	12,480	17,074
		一般財源	千円	23,389	20		
	事業費計	千円	48,402	21,649	24,632	31,997	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	本事業の目的/成果指標については、市内高校進学率を除き一定の水準で維持されており、雲南市への貢献意欲に溢れる人材育成は着実に進んでいる。 学校教育・社会教育いずれの場においても、地域住民はもとより、卒業生を含む多様な主体が教育活動に関わる動きが広がるなど、人と人とのつながりやこどもにとって寛容なチャレンジの場が醸成されている。
② 事業実施するうえでの課題	意識や行動変容など着実な成果の兆しがみられる一方、成果指標に掲げる市内生徒(中学生)の市内高校進学率の改善には至っておらず、さらなる市内生徒(中学生)の減少が確実に見込まれるなか、多様な価値観に触れたり、多様なニーズに応える教育環境の創出がより困難となる可能性がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	中学生や保護者への積極的かつ分かりやすい情報発信に努めるとともに、放課後のクラブ活動など学校外の教育環境を含め、官民連携により多様なニーズに応えることのできる特色ある教育環境づくりに注力する。 大東高校の遠方からの生徒受入環境の課題については、令和5年度に大東高等学校特別支援事業により寄宿舎(共同下宿)整備を図り改善を図ったところである。